

建設資材販売を通じて廃棄物削減に貢献

化研マテリアル(株)

建設資材の販売から現場施工、建廃を中心に8品目の産廃取運業を通じて建設業の廃棄物削減に寄与する。同社が開発したウレタン圧送UNマシンは、ウレタンの主剤と硬化剤合わせて540kgをドラム缶1つでパッキングするもの。同量を在来工法で施工すると44缶の金属缶が産業廃棄物として排出されるが、同設備ではドラム缶内帯の3袋だけとなる。缶つぶし作業が不要なので施工効率も向上する。昨年には、油圧ユニットを無くして静粛性能を追求した新型機を開

横浜に日量140tの混廃選別工場が竣工

アイテック(株)

横浜市金沢工業団地内に、産廃の選別と破碎を行う中間処理工場「アイテック横浜中間処理第一プラント」を竣工した。敷地面積は2761㎡で、建屋は1468㎡。敷地内には、基準値の2倍の樹木緑地帯を整備したほか、従業員の粉じん対策として、2m間隔の天井ミストと600㎡の集じん機を設置した。

取り扱い品目は▽廃プラ類▽紙くず▽木くず▽繊維くず▽ゴムくず▽金属くず▽ガラス・コンクリートくず及び陶磁器くず▽がれき類の8

油圧ショベルとの接触事故を低減するオプションを発表

日立建機(株)

同社の中型油圧ショベル5機種に搭載する接触事故防止用オプション「Aerial Angle STEP III」を発表した。同オプションは赤外線深度センサー及びカメラを機体上部に搭載し、周辺で人や障害物を検知した場合に、操作を抑止するもの。油圧ショベルの操作開始前に、物体を検知した場合、レバーを操作しても走行・旋回動作が行われない。また、走行・旋回動作中に物体を検知した場合、エンジン回転数の低減やモニター上の警告とブザー音でオペレータや周囲に注意

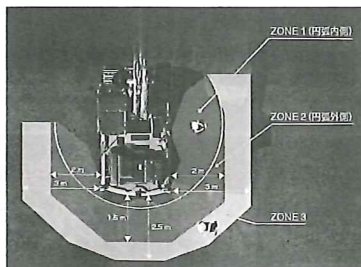


廃材はビニール袋のみ

発した。また、同社は適正な排出方法等に関するユニークなニュースレター「銀の汗」を2013年から顧客等に向けて発行している。読者からは好評で、現場コミュニケーションのきっかけにもなっているという。(3月発表)

種類。選別ラインは日量140.13t、破碎施設は日量10.08tの処理能力を持ち、最大保管容量は637.18㎡となっている。設備一式はベルテック(株)が担当。運び込まれた混合廃棄物は、最初にバリソートで重量物、中量物、軽量物に選別されて各コンベヤに載せられ、それぞれ手選別や風力選別、ジャンピングスクリーン等で徹底的に資源物と可燃物に分けられる。

新プラントは、2019年4月に受け入れを開始した同社の発電付き焼却プラント「アイテックグリーンパーク横浜」(日量94.8t、発電規模750kW、自家消費450kW)の処理能力を高める。同社はさらにもう一つの産廃中間処理工場を計画しており、年内の完成を目指す。(循環経済新聞3月2日号)



検知範囲イメージ

喚起し、操作の停止を促す。不意の停止は荷崩れや転倒事故を引き起こす可能性があることから、自動停止機能は搭載しない。国内向けの発売は6月を予定しており、年間200セットの販売を見込んでいる。(3月2日発表)

解体工事 & 建設リサイクル

隔月刊 EConecture 年6回奇数月1日の発行 通巻第96号
2020年5月1日発行 2007年7月6日第三種郵便物承認

隔月刊 [イー・コンテクチャー]

ECon Ecology Construction Architecture tecture

自然と資源を再生し環境を創造する。

5

May 2020

特集1

データでひもとく 解体・建廃の事業課題と改善策 (上)

解体工事編 市場見通し暗くないが、原価の高騰・人手不足・規制強化への対処が必須

特集2

アスベスト規制の最新動向 (上)

大防法の規制強化とこれからの事業の方向性

特集3

特別企画 2020全国・産業廃棄物最終処分場一覧 (上)

解体系含め建廃の受け皿ひっ迫が深刻化

E-Con インタビュー

災廃処理には専門技術が不可欠

(一社) 埼玉県環境産業振興協会理事・調査研修事業委員長 亀井寿之氏